

子どもに原始的な生活を

人にはことばで話したり、頭で考えたりするようないわば高等な精神機能と、足で歩いたり、手で触れたり、体を動かすという、もっと小さい子どもときからできるようになることと両方がある。人間の生活にとつてはこの両者が必要であるが、子どもの発達にとつてはとくに、原始的、基礎的な部分が十分に発達しないと、高等な機能が歪んでしまうようである。子どもの生活は、おとなが外から見えてわかる部分とはよほど違う側面があり、おとなとは異った感じ方をしている。ことばも十分に使いこなせず、もちろん文字の世界もまだできていない幼児の世界。おとなのように物を分類したり、人を区別して接することをしない幼児には、もっと肌で感じ、直観で理解する世界がある。理くつをつけると物事をかえってゆがめて見えてしまうことを私共は多く経験している。本当のものは理くつなしに、人間が感じることでできるものであ

ろう。子どもの時代の教育は、原始的で基礎的な部分を発達させることにいっしょけんめいになることが必要なのである。

だが、現実はどうであろうか。家庭でも幼稚園でも、子どもが手足を使って原始的な遊びをする機会が急激に減ってしまつた。子どものまわりには土も水もないし、また使うことを許されない。木の葉を部屋にもちこんだだけで汚いといつて捨てられ、子どもがどんなに多いことか。

現代の幼稚園は、もっと思い切つて、子どもに原始的な生活をとりもどす必要がある。土と水を、思い切つてかけまわれる環境を、感じたことをそのままに手足で表現できる生活をつくらねばならない。あまりおとなの規則をもちこんだらだめになる。幼稚園は幼児の教育をするところだから、幼児の必要とする生活をつくるように、みんなで力を合わせるものがつとめでもある。しかもそれをやっていかなないと、人間としての発達がおびやかされるであろう。

幼児の教育 第六十九巻 第九号

九月号 © 定価八〇円

昭和四十五年八月二十五日 印刷
昭和四十五年九月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一

印刷所 凸版印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座 東京 一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館 館にお願いたします